

(報告第4号について都市戦略推進担当より説明)

(質疑等の要旨)

- 委員長 交通のソフト面について、公共交通をどう利用していくのか、Maasをどのように充実していくのかを検討していく必要がある。計画に記載されている目標を達成するために、どのような取組を行うのか具体的に示していただきたい。
- 事務局 ICTの活用については、今後の取組であり、関係者及び関連部署と連携しながら実施できるように進めていきたい。
- 委員長 バスの運転手を確保するような取組を市でも検討しているのか。
- 事務局 大型免許を持っている市職員の定年後の再就職斡旋などの枠組みを関係者と協議している。職業選択の自由もあり、課題はあるが、他都市の事例も参考にしながら、引き続き検討していく。
- 委員長 誰もが安全・安心・快適に移動できる環境の創出について、市だけでなく警察や他団体との連携が必要である。特に警察との連携が重要であると考えるが、警察との連携について教えてほしい。
- 事務局 交通安全の取組は、市と警察が連携して実施している。他の取組についても関係者と連携しながら一体的に進めていく必要があると考えている。
- 委員長 交通トラブルの際に、警察の事実認定の杜撰さが問題となっている。警察の能力向上について市から働きかけることはできないのか。
- 事務局 例えば、自転車の取組は、交通行政について市と警察が協力して実施することから、交通違反の取り締まりや交通ルールの周知、啓発活動など、市から警察に対して働きかけることができる。しかし、警察が本来すべきいわゆる警察行政については、市が警察に対して意見することは難しい。
- 委員長 概要版P7に「生きがい・ささえあいと交通」であま咲きコインを活用したおでかけ促進とあるので、P6のイラストもWESTERアプリではなくあま咲きコインを掲載し、本市の魅力をPRすべきだったと思うが、どのように考えているのか。
- 事務局 総合交通計画は交通事業者の取組も網羅していることから、P6のイラストは、JRの取組を採用させていただいた。あま咲きコインについては、本市を訪れた方がより便利に活用できる方法を検討していく。
- 委員長 市外からの来訪者増やすことと市内の活性化のどちらを中心に考えているのか。
- 事務局 市内の活性化も重要であるが、市は観光にも力を入れており、交通の面から来訪者の増加に取り組むことも重要であると考えている。
- 委員長 武庫川の両岸は自転車で通行できる部分であり、自然環境の面からも他都市に自慢できる場所である。武庫川の両岸を活かした魅力的なまちづくりはできないか。
- 事務局 報告第5号で説明する。

- 委員 自家用車についてはどう考えているのか。
- 事務局 本市の自動車の交通分担率は高くないことから、公共交通を利用していただくことを中心に計画を定めている。公共交通を利用しない場合でも、自転車等の移動手段を考慮した目標設定にしている。
- 委員 直接的な記載はないが、自動車から公共交通への転換に向けた環境づくりを進めようと意識されていると感じる。
- 委員 若者の車離れと言われているが、子育て世代は自家用車を高い割合で持っている。子育て世代が住みやすいまちを目指す中で、自家用車から公共交通への転換を促し、公共交通の充実と駅前空間の整備に力を入れるべきか、または、自動車で移動しやすいまちをつくる上で渋滞解消に力をいれるべきか、方向性を教えてほしい。
- 事務局 駅から離れているなど、住環境によって、自家用車を利用される方が一定数いることは当然であり、全ての自家用車による交通を公共交通に転換することまでは考えていない。カーシェアの活用なども計画に位置付けており、ライフスタイルに応じた取組を促していきたいと考えている。

以 上